



は し ん ぶ ん よつ葉新聞

福島県立平支援学校
第 5 号
令和2年10月吉日発行



子どもを主語として

教頭 高木 美江子

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

未だコロナ渦を脱出できていない現状ですが、本校の子ども達は元気いっぱい学習に励んでいます。保護者の皆様を始め、地域の様々な分野の方々に、本校の教育活動に対しての深いご理解とご協力いただき、こその今、とあらためて感謝申し上げます。

特別支援学校に勤務して3年半、未だに新しい気づきがある毎日です。高校教員になって、生徒と学び合ってきた30年、その後、「あれ?!小学生とどうやって話すんだっけ?!」から始まった特別支援学校での初勤務……。聞くこと見ることほとんどのことが初めてで、「勝手が違うとはこういうことか!」と痛感する日々でした。

高校と特別支援学校の両方に勤務して思うことは、親や教師がどれだけ一生懸命子どもに関わるか、ばかりでなく、その一生懸命さがどれだけ子どもに伝わるか、ということです。このことは、私自身の子育ての反省から見えてきた事実でもあります。私の長男は体が小さく幼少時に「かまわれっ子」で時に不登校もあり、親としての試練がありました。目の前の我が子がなぜこんなに遠い存在?なぜこんなに親の気持ちをわかしてもらえないのだろう……。と悩む日々でした。しかし、こんな我が子と、様々な生徒や保護者との関わりを経た今、思うことがあります。

彼に(人に)気持ちを「わかってもらう」は英語では、” I have him understand .” となります。つまり、理解させる I =私の主語であって、理解する子どもが主語ではないのです。「親は一生懸命なのになあ(なぜこの子が?)。」とよく聞きますが、それは、我息子も同様に、親の一生懸命さを子ども自身が自分のこと(主語)として感じていない=伝わっていないからだと思うのです。子育ては手が抜けません。一方、私達親も自分のことがあります。しかし、やはり子育ては親の最重要な仕事です。(ある心理学者は「親業」と呼んでいます)。それ故に、私達は子どもの気持ちをいつも中心に置き、子どもを主(語)として、子どもが「何を言いたいのか」「どう考え、どうしたいのか」を思いやることのできる親であり教師でありたいものです。このことは障がいの有無に関わらない課題だと私は思います。

縁あって、ここ平支援学校に勤務できたことを幸いに思います。小学部から高等部の児童生徒の姿と教師の関わりを見て、自分がかつて歩んできた学びの過程とその本質が特別支援教育で初めてわかる気がします。特別支援学校には教育の原点があると感じます。児童生徒に、日々真摯に向き合う教員の指導には及びませんが、本校の役に立つよう精一杯任務を果たす所存です。今後ともよろしくお願ひいたします。

早期教育相談教室「あ・そ・び・ば」

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見合わせていましたが、9月25日(金)より「あ・そ・び・ば」が始まりました。検温や手指のアルコール消毒など、感染症予防にご協力いただきありがとうございました。また、今年度の「あ・そ・び・ば」は2学期3回、3学期は2回を予定しています。(今後の感染者の状況により見合わせる場合があります。)限られた時間の中でも、充実したものにしていきたいと思います。ご参加お待ちしております。



今後のあそびばは・・・

11/20(金) 12/18(金)

1/22(金) 2/19(金)

に行きます♪



秋といえば
「読書の秋」!

図書紹介



「みえるとか みえないとか」 ヨシタケシンスケ作

「みえないから できないこと」は たくさんあるけれど、「みえないからこそ できること」も たくさんある。 ※本の中の一節

『りんごかもしれない』や『もうぬげない』などで知られるヨシタケシンスケさんの絵本です。この絵本は、『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（伊藤亜紗/著書）をきっかけに、視覚障がいの人と見える人が普段、世界を「どう見ているのか」、「感じているのか」を話し、お互いの「違うところ」を知っていくという本です。主人公の「宇宙飛行士のぼく」は、様々な星で「ぼく」とは体の特徴が違う宇宙人に会います。その中で、「目の見えない宇宙人」に出会い、「ぼく」と「彼」とでは世界の感じ方が違うことを知ります。『「みえないから できないこと」は たくさんあるけれど、『みえないからこそ できること』も たくさんある』という言葉が本の中に出てきます。「ぼく」はその言葉を聴き、「ぼくたちの世界も同じ」ことに気づきます。例えば、背が大きい人と小さい人が見える景色の違い、歩けない人だけが分かること、子どもにしか分からないことなど、みんなちょっとずつ違うということを知ります。読み終わった後に、お互いの違いを認め合いながら・・・そんな風に世界がいつもとは少し違う見え方にしてくれる本です。

やさしくわかる ぼうさい・ぼうはんのえほん

「じしん・つなみ どうする？」 絵：せべまさゆき 監修：国崎信江



「じしんは とつぜん やってくる! じしんが きたら どうするの?」 ※本の中の一節

皆さんは、災害がきたときにはどうしますか? この絵本の中では、家の中だけではなく、店の中や海の近くにいるときに地震が起きたら…など場所ごとの避難の仕方が分かりやすく説明されています。いつ起こるか分からない災害のために、子ども達一人一人が、自分で自分の身を守る方法を学び、防災意識や知識を得ることができるようになられた本です。巻末には、大人に向けた「外や中にいるときの避難の仕方」や「災害後の子どもへの心のケア」など防災知識を解説するページもあります。この本を子ども達と「防災」について話し合うきっかけにするのはいかがですか。

～お知らせ～



今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、「学校へ行こう週間」は保護者等に制限して行います。ご理解のほどよろしくお願いいたします。